



### ◎ プログラムの目的

建学の精神「智と徳を兼ね備え社会に貢献し得る女性の育成」に基づき、全学生が数理・データサイエンス・AIに関する基礎的な知識・能力を身に付け、デジタル社会において、AIやデータを適切に理解し、活用できる力を育成する。

データサイエンスの基本的な手法やAIの仕組みを学ぶことを通して、学んだ知識やスキルを実社会の課題に応用・発展させるための基礎力を養う。

### 🎓 身に付けることができる能力

知識・理解 AI・データサイエンスの基本概念、利点、リスク、社会的意義を理解する

思考・判断 データを扱い、分析・可視化・評価などの基礎的活用ができる

技能・応用 データに基づき課題を捉え、その解決や価値創出につなげる

### 🚩 プログラム構成科目 — 4年間の学びの流れ —

「数理・データサイエンス・AI入門」（1単位）令和9年度から全学必修

#### 1年次

##### 基礎の習得

・情報処理 I・II（各1単位）／ICTリテラシー I・II\*（各1単位）／情報基礎（1単位）  
\*令和8年度から開講

#### 2年次

##### 基礎から応用への展開

・くらしの統計\*／統計学\*／数理統計概論\*（学部別）  
\*令和8年度から開講

#### 3年次

##### 専門分野でのデータ活用

・SNSデータ分析（現代文化）／HACCP管理実践論（生活科学）／保育ICT演習（こども教育）

#### 4年次

##### 専門演習・卒業研究での応用

・AIとコンテンツ（現代文化）／管理栄養士総合演習 I・II（生活科学）／保育・教職実践演習（こども教育）

### 📖 専門分野との接続

#### 📖 現代文化学部

・文献・SNS分析 → トレンド可視化 → 生成AI活用コンテンツ研究

#### 🍏 生活科学部

・栄養データ基礎分析 → 食品衛生リスク評価 → AI活用健康・食育プログラム改善

#### 👨‍👩‍👧‍👦 こども教育学部

・保育記録データ化・可視化 → ICT教材・文書作成 → AI活用園・家庭連携強化

### 🚩 修了要件

「数理・データサイエンス・AI入門」（1単位）の単位修得をもってプログラム修了とする

### 🔧 実施・運営体制

#### 教務連絡協議会

教育課程の編成に関する全学的な方針の策定、検証及び改善方針の決定

指示・助言 →

#### データサイエンス教育部会

数理・データサイエンス・AI教育の企画、実施、一次評価及び改善案の作成

報告・提案 →

#### 教授会・学科会議等

教育課程（教養教育及び専門教育）の編成、承認及びプログラムの最終評価

助言・支援 →

#### 情報教育担当教員 教務課・大学企画室

授業設計・教材整備・ICT支援  
履修管理・授業支援・IR分析



⑥ プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素		授業に含まれているスキルセットのキーワード
(1) 現在進行中の社会変化 (第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビッグデータ、IoT、AI:「数理・データサイエンス・AI入門」(第1回)</li> <li>・第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会:「数理・データサイエンス・AI入門」(第1回)</li> <li>・データ量の増加、計算機の処理性能の向上:「数理・データサイエンス・AI入門」(第1回)</li> <li>・AIの非連続的進化(第1次AIブーム、第2次AIブーム、第3次AIブーム):「数理・データサイエンス・AI入門」(第1回)</li> <li>・複数技術を組み合わせたAIサービス:「数理・データサイエンス・AI入門」(第1回)</li> <li>・人間の知的活動とAIの関係性:「数理・データサイエンス・AI入門」(第1回)</li> </ul>
	1-6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・AI等を活用した新しいビジネスモデル:「数理・データサイエンス・AI入門」(第1回)(第15回)</li> <li>・AI最新技術の活用例:「数理・データサイエンス・AI入門」(第1回)(第15回)</li> </ul>
(2)「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・調査データ、実験データ、行動ログデータ、稼働ログデータ:「数理・データサイエンス・AI入門」(第2回)</li> <li>・1次データ、2次データ:「数理・データサイエンス・AI入門」(第2回)</li> <li>・表形式データ、構造化データ、非構造化データ:「数理・データサイエンス・AI入門」(第2回)</li> <li>・データのオープン化(オープンデータ、政府統計ポータル):「数理・データサイエンス・AI入門」(第2回)</li> <li>・文章、画像、音声等の非構造化データ:「数理・データサイエンス・AI入門」(第2回)</li> </ul>
	1-3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・データ・AI活用領域の広がり(研究開発、物流、販売、マーケティング、各種サービス):「数理・データサイエンス・AI入門」(第1回)(第2回)(第3回)(第15回)</li> </ul>
(3) 様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・機械学習を用いたデータの予測(回帰)、分類:「数理・データサイエンス・AI入門」(第2回)(第11回)</li> <li>・非構造化データ処理(言語処理、画像処理):「数理・データサイエンス・AI入門」(第3回)(第11回)</li> <li>・認識技術(画像認識、音声認識、自然言語処理):「数理・データサイエンス・AI入門」(第3回)(第11回)</li> <li>・特化型AIと汎用AI:「数理・データサイエンス・AI入門」(第11回)</li> <li>・ルールベースAIと機械学習:「数理・データサイエンス・AI入門」(第11回)</li> <li>・AI発展の歴史と現代AIでできること・できないこと:「数理・データサイエンス・AI入門」(第1回)(第11回)</li> <li>・課題解決のプロセス:「数理・データサイエンス・AI入門」(第3回)(第11回)</li> </ul>
	1-5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケアでのデータ・AI利活用事例:「数理・データサイエンス・AI入門」(第2回)(第12回)</li> <li>・データサイエンスのサイクル(仮説抽出と定式化、データ収集、可視化、分析):「数理・データサイエンス・AI入門」(第2回)(第11回)</li> </ul>
(4) 活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報倫理、個人情報保護:「数理・データサイエンス・AI入門」(第2回)</li> <li>・プライバシー保護、忘れられる権利:「数理・データサイエンス・AI入門」(第2回)</li> <li>・AI社会原則(公平性、説明可能性、透明性、アカウントビリティ):「数理・データサイエンス・AI入門」(第2回)</li> <li>・AIサービスの責任論:「数理・データサイエンス・AI入門」(第2回)</li> <li>・データバイアス、アルゴリズムバイアス:「数理・データサイエンス・AI入門」(第2回)</li> <li>・データ・AI活用における負の事例:「数理・データサイエンス・AI入門」(第2回)</li> </ul>
	3-2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報セキュリティの3特性(機密性、完全性、可用性):「数理・データサイエンス・AI入門」(第2回)</li> <li>・暗号処理、パスワードの管理、盗聴、改ざん、なりすまし:「数理・データサイエンス・AI入門」(第2回)</li> <li>・セキュリティインシデント事例と基本的対策:「数理・データサイエンス・AI入門」(第2回)</li> </ul>

(5) 実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・データの種類(量的変数、質的変数、尺度水準):「数理・データサイエンス・AI入門」(第9回)</li> <li>・名義尺度、順序尺度、間隔尺度、比率尺度:「数理・データサイエンス・AI入門」(第9回)</li> <li>・データの分布と代表値(平均値、中央値、最頻値):「数理・データサイエンス・AI入門」(第9回)</li> <li>・代表値の性質と解釈:「数理・データサイエンス・AI入門」(第9回)</li> <li>・ばらつきの指標(分散、標準偏差、範囲、四分位範囲):「数理・データサイエンス・AI入門」(第10回)(第11回)</li> <li>・外れ値、誤差:「数理・データサイエンス・AI入門」(第10回)</li> <li>・記述統計と推測統計:「数理・データサイエンス・AI入門」(第9回)(第10回)</li> <li>・母集団と標本抽出:「数理・データサイエンス・AI入門」(第9回)(第13回)</li> <li>・統計情報の正しい理解、誤解を招く表現:「数理・データサイエンス・AI入門」(第3回)(第8回)(第9回)(第10回)</li> </ul>
	2-2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相関関係の分析(相関係数、相関係数行列、散布図):「数理・データサイエンス・AI入門」(第10回)(第12回)</li> <li>・因果関係と相関関係の違い:「数理・データサイエンス・AI入門」(第10回)</li> <li>・擬似相関、交絡変数:「数理・データサイエンス・AI入門」(第10回)</li> <li>・データの可視化手法(棒グラフ、折れ線グラフ、円グラフ、散布図、箱ひげ図、ヒートマップ):「数理・データサイエンス・AI入門」(第8回)(第9回)</li> <li>・適切なグラフ表現、不適切なグラフ表現:「数理・データサイエンス・AI入門」(第3回)(第8回)</li> <li>・誤解を招くグラフの例(不適切な二重軸、傾向線):「数理・データサイエンス・AI入門」(第8回)</li> </ul>
	2-3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・データの基本的な集計処理:「数理・データサイエンス・AI入門」(第7回)(第8回)(第9回)</li> <li>・データの並び替え、順序:「数理・データサイエンス・AI入門」(第7回)(第8回)(第9回)</li> <li>・Excelの基本的な利用方法:「数理・データサイエンス・AI入門」(第4回)(第7回)</li> <li>・基本的な関数(SUM, AVERAGE, COUNT, IF等):「数理・データサイエンス・AI入門」(第4回)(第7回)</li> </ul>



## 教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

## ① 全学の教員数

(常勤)	45	人
(非常勤)	53	人

## ② プログラムの授業を教えている教員数(令和7年度)

3	人
---	---

## ③ プログラムの運営責任者

(責任者名)	畠山 真一
(役職名)	学長補佐(教育・研究担当)

## ④ プログラムを改善・進化させるための体制(委員会・組織等)

(名称)	尚綱大学・尚綱大学短期大学部データサイエンス教育部会
------	----------------------------

## ⑤ プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称

(名称)	尚綱大学・尚綱大学短期大学部データサイエンス教育部会規程
------	------------------------------

## ⑥ 体制の目的

本体制は、建学の精神及び教育理念に基づき、全学生が数理・データサイエンス・AIリテラシーを修得できる教育環境を整備することを目的とする。本プログラムを3学部横断の全学的教育課程として位置付け、企画、実施、改善及び評価を一元的に統括する。データサイエンス教育部会は教養教育主任を部会長とし、各学部代表教員、教務課と連携して教学マネジメントを行う。専門分野の特性を踏まえた教育内容の検討、生成AIを含む技術動向への対応、モデルカリキュラム基準の維持向上を担う。また、教務連絡協議会と連携し、教育成果の可視化と改善を継続的に行う体制を構築する。

## ⑦ 具体的な構成員

・ 實松史幸	教養教育主任・データサイエンス部会長
・ 畠山真一	学長補佐(教育・研究担当)・教務連絡協議会議長
・ 釜賀誠一	現代文化学部(情報教育)
・ 宇野文恵	現代文化学部
・ 岡田大輔	現代文化学部
・ 澤部加奈子	生活科学部
・ 上田裕人	生活科学部
・ 中村佐里	こども教育学部(情報教育)
・ 牧岡 毅	短期大学部総合生活学科(情報教育)
・ 秋吉澄子	短期大学部食物栄養学科
・ 山口昌澄	短期大学部幼児教育学科
・ 西山弘樹	大学事務部長
・ 吉田 貴	武蔵ヶ丘事務室長
・ 中川裕介	教務課長

※本部会は、令和8年度に設置した部会であり、申請前年度までは、教務連絡協議会の下での情報教育検討ワーキンググループ(非公式な検討組織)として活動し、プログラムの策定、拡充及び改善等を行った。

⑧ 履修者数・履修率の向上に向けた計画

令和7年度履修率	8%
令和8年度予定	35%
令和9年度予定	60%
令和10年度予定	85%
令和11年度予定	100%

具体的な計画

本プログラムは令和7年度に開設し、令和9年度から「数理・データサイエンス・AI入門」を全学必修として位置付け、履修率100%の達成を目指す。新入生オリエンテーションにおいて学長が本プログラムの意義を説明し、学修動機付けを行う。授業改善アンケートや成績分布を踏まえ、数学的背景が異なる学生に対応した個別指導体制を強化する。専門教育科目との接続を深めるため、各学部の担当教員と連携し、データ活用が専門分野の学びに直結することを明確化する。令和9年度以降はIR支援サイト等を活用して学修成果の経年分析を行い、社会的ニーズを踏まえた内容の高度化や応用基礎レベルへの接続を検討する。これらの取組をデータサイエンス教育部会で毎年度点検し、教務連絡協議会及び教授会等で審議することで、継続的な改善サイクルを確立する。

⑨ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

本学は2学部(現代文化学部・生活科学部)と1学部(こども教育学部)が異なるキャンパスに所在するが、いずれの学生も共通科目「数理・データサイエンス・AI入門」を履修できるよう、時間割及び担当体制を整備する。各キャンパスに情報教育担当教員を配置し、学生は自キャンパスで対面授業を受講できる体制を構築する。Google Classroomを中心としたLMSを活用し、教材、課題、確認テストを共有することで、学部間で同水準の学修機会を確保する。情報教育担当教員が連携し、学問分野の特性を踏まえた共通教材を開発することで、どの学部の学生にとっても理解しやすい内容とする。演習を伴う適切なクラス規模を維持し、質問しやすい学修環境を整える。

⑩ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

本プログラムの意義を学生に理解させるため、新入生オリエンテーションにおいて学長が数理・データサイエンス・AIリテラシーの重要性を説明し、全学生に求められる基礎的素養であることを示す。初年次教育科目を活用し、データ活用が各専門分野の学びとどのように結び付くかを具体的事例を通して紹介する。授業内では身近なデータや地域課題を扱い、興味関心を高める工夫を行う。数学に苦手意識を持つ学生にも取り組みやすい内容とし、段階的に理解を深められるよう配慮する。これらの取組により、学生が本プログラムの必要性を主体的に理解し、積極的に学修へ参画する基盤を形成する。

⑪ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

多様な学習背景を持つ学生が安心して学修を進められるよう、正課外の学修支援講座や個別相談体制を整備する。数学や統計に不安を抱える学生には担当教員が個別指導や補習を行い、理解を段階的に深める支援を行う。Google Classroomに教材や確認テストを蓄積し、オンデマンド学習環境を提供する。クラス担任が出席状況や学修状況を把握し、必要に応じて早期面談を行うことでつまづきを未然に防ぐ。令和7年度からノートPC必携化を実施し、学生自身のデバイスを活用した柔軟な学修環境を整備する。経済的理由による困難には貸出PCを提供し、学修環境の格差を解消する。

⑫ 授業時間内外で学修指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

授業時間内外を問わず、学生が疑問点を抱えたままにしないよう、教員が丁寧な学修支援を行う。授業内では理解状況を確認しながら説明内容を調整し、つまずきを防ぐ。授業外ではGoogle Classroomを通じて資料や課題を共有し、個別質問に対応する。全専任教員が週2回のオフィスアワーを設け、対面又はオンラインで相談を受け付ける。正課外の学修支援講座を開講し、希望者が参加できる機会を提供する。学期中間には授業改善アンケートを実施し、学生の理解度や要望を把握した上で授業内容に反映する。これらの取組により、学生が安心して学修に取り組める環境を整備する。

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制 教務連絡協議会

(責任者名) 畠山 真一  
 (役職名) 学長補佐(教育・研究担当)

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点		自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
<b>学内からの視点</b>		
プログラムの履修・修得状況	本プログラムの履修・修得状況は、データサイエンス教育部会が中心となり、情報教育担当者、教務課及び大学企画室と連携して把握・分析する。LMSを通じた出席状況、課題提出状況、確認テスト結果を確認し、教務課は履修登録及び成績分布を集計する。大学企画室はIR機能を活用し、年度間・学部間の傾向を分析する。これらの結果を基に教育内容や運営方法の改善を行い、質保証につなげる。	
学修成果	学修成果は、各学部のディプロマ・ポリシーに基づき、確認テスト、データ分析演習、最終レポート等を組み合わせて多面的に評価する。特に、身近なデータから課題を読み取り、分析結果を説明する力については、地域データ等を用いた課題を設定し、ルーブリックにより評価の透明性を確保する。成績分布や学生のつまずきの傾向を分析し、授業内容や教材の改善に反映する。	
学生アンケート等を通じた学生の 内容の理解度	学生の理解度及び学修上の困難を把握するため、学期の中間期と期末に授業改善アンケートを実施する。アンケートでは、重要項目ごとに理解度を5段階で評価し、自由記述で意見を収集する。中間アンケートで理解不足が確認された項目については、授業計画を修正し、補足説明や演習時間の確保を行う。結果は大学企画室が集計し、担当教員にフィードバックする。	
学生アンケート等を通じた後輩等 他の学生への推奨度	本プログラムの価値を把握するため、期末アンケートに「後輩に受講を勧めたいか」をたずねる項目を設ける。推奨度の高い学生には、その理由(実務への有用性、操作の楽しさ、教員の支援等)を自由記述で収集し、翌年度の授業改善に活用する。推奨度が低い層については、専門との関連性や難易度の適切性を分析し、教材や説明方法の改善につなげる。	
全学的な履修者数、履修率向上 に向けた計画の達成・進捗状況	令和9年度からの全学必修化に向け、履修率向上計画の進捗を毎年度点検する。履修登録状況、単位修得率、成績分布を分析し、休学・退学等を除いた対象学生が確実に履修できているかを確認する。理解度が低い単元が確認された場合には、補習講座の拡充や教材改善を行う。点検結果はデータサイエンス教育部会で共有し、教務連絡協議会で改善方針を決定する。 ※令和5年度開設のこども教育学部の完成年度が令和8年度となるため、こども教育学部における「数理・データサイエンス・AI入門」の必修科目化は令和9年度からとしている。	
<b>学外からの視点</b>		
教育プログラム修了者の進路、 活躍状況、企業等の評価	令和9年度からの全学必修化に向け、履修率向上計画の進捗を毎年度点検する。履修登録状況、単位修得率、成績分布を分析し、休学・退学等を除いた対象学生が確実に履修できているかを確認する。理解度が低い単元が確認された場合には、補習講座の拡充や教材改善を行う。点検結果はデータサイエンス教育部会で共有し、教務連絡協議会で改善方針を決定する。 ※令和5年度開設のこども教育学部の完成年度が令和8年度となるため、こども教育学部における「数理・データサイエンス・AI入門」の必修科目化は令和9年度からとしている。	
産業界からの視点を含めた教育 プログラム内容・手法等への意見	地域企業や実務家教員から、データ活用の基礎力は全分野で必要とされるとの意見が寄せられている。特に、AIの適切な理解、データの読み取り、可視化、倫理的配慮の重要性が指摘されている。保育、栄養、文化分野では、記録のデジタル化やデータに基づく説明力が求められており、本プログラムの内容は実務と整合しているとの評価を得ている。これらの意見を教育改善に活用する。	
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	学生が数理・データサイエンス・AIを学ぶ意義を理解できるよう、授業では身近なデータや地域課題を扱い、学びが実生活や専門分野と結びつくよう工夫する。演習では自らデータを扱う体験を重視し、成果が可視化されることで学ぶ楽しさを実感できるようにする。学生アンケートでも「将来に役立つ」「理解が深まった」との声が多く、これらの結果を授業改善に反映する。	

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
<p>内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること</p> <p>※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載</p>	<p>授業の分かりやすさを向上させるため、授業改善アンケートの結果を基に説明方法、教材構成、演習内容を見直す。理解度が低い単元については補足資料の作成や演習時間の追加を行う。Google Classroom を活用し、復習しやすい教材を整備する。学生をつまずきの傾向を分析し、翌年度の授業計画に反映することで、内容・水準を維持しつつ、より理解しやすい授業改善を実施する。</p>

## (2) プログラム構成科目の令和7年度シラバス (大学)

開講年度 令和7年度

現代文化学部 文化コミュニケーション学科 授業コード: U31A087000

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
数理・データサイエンス・AI 入門	1.0	釜賀 誠一	1年	後期	演習	必修
授業概要	数理・データサイエンス・AI に関する基礎知識を学習するとともに、社会、政治、経済、医療など身の回りの分野でデータサイエンス・AI がどのように活用されているかについて、基礎的な能力を体系的に習得する。					
キーワード	数理, データサイエンス, AI (人工知能), Excel					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>デジタル社会において、数理・データサイエンス・AI を日常生活や仕事の中で使いこなすことができる基礎的素養を身に着ける。</li> <li>数理・データサイエンス・AI に関する知識・技能を基に、これらを扱う際に人間中心の適切な判断ができるようにする。</li> <li>データサイエンス・AI について説明し活用できる能力を身につける。</li> </ul>					
受講生に臨むこと	事前・事後学修、及び期間中の学修に積極的に取り組み、数理・データサイエンス・AI の活用を日常の中で意識すること。また、遅刻欠席をせずに毎回必ず出席し、解らないことをそのままにせずに、その場で質問して解決すること。					
課題と評価の方法	確認テスト (40%)、Excel による演習結果 (60%) を目安に評価を行う。					
授業と学位授与方針 (DP) との関連						
DP1	日本語および外国語の運用力に基づく、高度なコミュニケーション力を修得している。					
DP2	伝統的および現代的な日本文化に関する深い知識に基づき、古代から現代に至る日本文化を調査・分析する能力を修得している。					
DP3	高度情報化とグローバル化が進行した日本の地域社会・地域文化、および東アジアの社会文化に関する幅広い知見に基づき、日本社会・文化に関する諸問題を調査・分析する力を修得している。					◎
DP4	上述の能力を総合的に活用して、ビジネスや行政の場で協働して問題を解決できる。					○
DP5						
DP6						
DP7						
回	授業計画	講義内容	事前学修	事後学修		
1	オリエンテーション、社会で起きている変化、これからの社会、Society5.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業ガイダンス (授業目標, 授業計画, 評価方法など)</li> <li>Society5.0, 情報通信技術の進歩, 人工知能 (AI), ビッグデータ, AI とビッグデータを活用したテクノロジー, AI で変わる私たちの暮らしについて説明する。(1-1) (1-2)</li> </ul>	Society 5.0 について調べる。	ビッグデータで用いられる3つのVやSociety 5.0社会におけるデータやAIの活用についてまとめる。		
2	AI 時代に求められる人材、データサイエンスの必要性、データ活用のプロセス	<ul style="list-style-type: none"> <li>AI 時代に求められる人材, データ活用を知る, データサイエンスの必要性, 価値を生み出すには, データサイエンスの使われ方(1-1)</li> <li>データ活用のプロセス, データ収集, データへの変換. データの選択, オープンデータ, データ取得の注意点 (情報倫理, 改ざん, 信ぴょう性, バイアス等)の説明。(3-1) (3-2)</li> </ul>	AI 時代に求められる人材について調べる。	データ取得の問題点について、今後求められる人材のスキル、目的設定等の設問に回答する。		

3	データ活用のプロセス、分析、考察、表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分析の内容として、データの前処理や統計解析について解説する。(2-1)</li> <li>・考察, 表現の内容として, 情報をデザイン, 表の表現, グラフの表現について、説明し特に、「正しいふりをしたデータ」にだまされないことを示す。(2-2)</li> </ul>	分析することについて調べる。	データクレンジング、表のデータを元に適切なグラフの選択に回答する。
4	分析手法を知る、Excel の基本、各種計算式、各種関数 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・データを読み分析手法を知るために、Excel の基本の習得を行う。計算式、数式のコピー、絶対参照と相対参照、合計、データの個数、最大値・最小値の演習を行う (2-3)</li> </ul>	基本的な Excel 関数を調べておく	基本的なエラーの対処、関数などについて基礎知識について回答する。
5	分析手法を知る、Excel の基本、各種計算式、各種関数 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・データを読み分析手法を知るために、Excel の基本の習得を行う。四捨五入・切り上げ・切り捨て、整数、順位付け、VLOOKUP 関数について演習する。(2-3)</li> </ul>	基本的な Excel 関数を調べておく	基本的なエラーの対処、関数などについて基礎知識について回答する。
6	分析手法を知る、Excel の基本、各種計算式、各種関数 3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・データを読み分析手法を知るために、Excel の基本の習得を行う。IF 関数、ネスト、AND 関数・OR 関数の演習を行う。(2-3)</li> </ul>	基本的な Excel 関数を調べておく	IF 関数及び判断方法について基礎知識について回答する
7	分析手法を知る、データベース活用の基本、ピボットテーブル	<ul style="list-style-type: none"> <li>・データベース活用の基本(並べ替え, オートフィルター, オートフィルターオプション, トップテン, ワイルドカード)の演習を行う。(2-3)</li> <li>・ピボットテーブル(ピボットテーブルの使用, レイアウトの変更, データフィールドの追加, 3項目での集計, アイテムを限定する, 集計方法の変更, データの更新)の演習を行う(2-3)</li> </ul>	データベースの基本について調べておく。	データベース用語、ワイルドカード、ピボットテーブルについての基礎的問題に回答する。
8	分析手法を知る、グラフ作成、縦棒グラフ等の各種グラフ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グラフ作成 (縦棒グラフ, 積み上げ縦棒グラフ, 100%積み上げ縦棒グラフ, 折れ線グラフ, 円グラフ, 最小値の変更, 目盛り間隔の変更, 千単位のグラフ, 複合グラフ) の演習を行う(2-2)</li> </ul>	グラフの種類について調査しておく	時間経過時の適切なグラフ、各種グラフで適切な表現について回答する。
9	分析手法を知る、標本調査、代表値等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・標本調査(標本調査, ランダムサンプリング)について解説する。(2-1)</li> <li>・代表値(平均値, 中央値, 最頻値)について演習を行う(2-1)</li> </ul>	基本的な標本調査方法について調査しておく	標本調査で必要な調査方法、適切な標本調査方法について回答する。
10	分析手法を知る、ばらつき、度数分布表、標準偏差、正規分布等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ばらつき(度数分布表, ヒストグラム, 分散, 標準偏差, 正規分布)について演習する。(2-1)</li> <li>・確率(統計的確率, 場合の数, 順列, 組合せ, 和の法則と積の法則)の基本を解説する。(2-1)</li> <li>・関係(散布図, 相関係数, 相関行列, 外れ値)について演習する。(2-1)</li> </ul>	標本調査で発生するばらつきについて調査しておく	確率や相関関係、相関係数、散布図について回答する。
11	分析手法を知る、回帰分析、回帰直線、回帰分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・回帰分析(回帰直線, 回帰式, 決定係数)について演習を行う。(2-1)</li> <li>・データの活用事例として、本当の主要顧客を発見して売上アップ(統計の活用事例を確認, 顧客分析を体験する, 「顧客分析」体験を振り返る)を参照して事例活用について解説する。(1-4)(1-5)</li> </ul>	回帰分析と活用事例について教科書を読んでおく	回帰分析、夏季法廷危機から導かれる問題、顧客分析の判断問題等について回答する。
12	データの活用事例に学ぶ、天気と売り上げの関係と効果的な販売・仕入	<ul style="list-style-type: none"> <li>・データの活用事例として本当の主要顧客を発見し売上アップ(統計の活用事例を確認)(1-5), 仕入れ計画を体験する, 「仕入れ計画」体験を振り返る)の事例を通した分析の解説を行う(1-4)(1-5)</li> </ul>	データ活用事例の教科書を読んでおく	天気と売上の関係、販売予測の目的、相関係数値が妥当なのか回答する

13	データの活用事例に学ぶ、統計的思考で商品の品質チェック 1	・統計的思考で商品の品質チェック(統計の活用事例を確認, サンプルングによる品質管理を体験する, 「品質管理」体験を振り返る)の事例の分析開設を行う(1-5)	活用事例での相関係数について調べておく	活用事例の相関係数の値から推測するものを回答する。
14	データの活用事例に学ぶ、統計的思考で商品の品質チェック 2	・統計的思考で商品の品質チェック(品質管理を体験する, 「品質管理」体験を振り返る)の事例の分析開設を行う(1-5)(2-1)	品質管理について調べておく	標本調査のメリット、標準誤差、標準偏差、品質の考え方について回答する
15	データ活用を实践する AI 入門演習	・データを活用するにあたって、現在使用されている生成 AI ツールについて説明し、Gemini を用いたコンテンツ生成等の利用方法について、実践演習を行う。(1-3)(1-6)	生成 AI がどのようなものがあるのか調べる	生成 AI を使用する場合の注意点等について回答する。
関連科目	情報処理 I, 情報処理 II			
資格				
教科書	はじめの第一歩 基礎からはじめる データサイエンス、noa 出版、2,200 円(税込)			
参考資料	電子資料は Classroom を用いて提示・配布する。			
連絡先	E-Mail : kamaga-lec@shokei-gakuen.ac.jp 九品寺キャンパス 九品寺 7 号館 5 階 研究室 21			
オフィスアワー	授業の前後で質問を受け付ける。			
備考	<p>※情報処理教室の定員を超える履修登録があった場合、何らかの履修制限を設ける可能性がある。</p> <p>【ICT を活用した自主学習型授業】 Classroom を用いて、課題の配布・提出やフィードバックを行う</p> <p>【オープン教育リソース】 授業で使用する演習データを教材として使用し、授業時に配布する。</p> <p>【アクティブ・ラーニング】 実習 クラスコードは基本的に教師側から学生へ直接招待メールを送信するが、次のコードを入力しても良い。</p> <p>クラスコード : ghj4roc  </p>			

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
数理・データサイエンス・AI 入門	1.0	釜賀 誠一	1年	集中講義	演習	選択
授業概要	数理・データサイエンス・AI に関する基礎知識を学習するとともに、社会、政治、経済、医療など身の回りの分野でデータサイエンス・AI がどのように活用されているかについて、基礎的な能力を体系的に習得する。					
キーワード	数理, データサイエンス, AI (人工知能), Excel					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタル社会において、数理・データサイエンス・AI を日常生活や仕事の場で使いこなすことができる基礎的素養を身に着ける。</li> <li>・数理・データサイエンス・AI に関する知識・技能を基に、これらを扱う際に人間中心の適切な判断ができるようにする。</li> <li>・データサイエンス・AI について説明し活用できる能力を身につける。</li> </ul>					
受講生に臨むこと	事前・事後学修、及び期間中の学修に積極的に取り組み、数理・データサイエンス・AI の活用を日常の中で意識すること。また、遅刻欠席をせずに毎回必ず出席し、解らないことをそのままにせずに、その場で質問して解決すること。					
課題と評価の方法	筆記試験（100％）で評価を行う。					
授業と学位授与方針（DP）との関連						
DP1	幅広い社会的関心と教養を有するとともに、豊かな人間性に基づく優れたコミュニケーション力を身につけている。					◎
DP2	食に関する専門的知識を基盤とした実践的技能を有するとともに、科学的に情報を分析・活用できる能力を身につけている。					○
DP3	栄養・食品・医療・教育等に関する先進的な専門的知識を修得し、専門職としての役割を理解し、社会的責任感と倫理観を備え、自主的自律的に研鑽に努めつつ社会に貢献しようとする態度を備えている。					
DP4	積み上げてきた体系的知識・技能及び最新の知見を総合的に捉え、保健・医療・福祉・食品・教育・行政等の専門分野の課題に対する的確な考察・判断を行う能力をもち、専門職として他職種との連携のもと、実践に移す能力を身につけている。					○
DP5						
DP6						
DP7						
回	授業計画	講義内容	事前学修	事後学修		
1	オリエンテーション、社会で起きている変化、これからの社会、Society5.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業ガイダンス（授業目標、授業計画、評価方法など）</li> <li>・Society5.0, 情報通信技術の進歩, 人工知能(AI), ビッグデータ, AI とビッグデータを活用したテクノロジー, AI で変わる私たちの暮らしについて説明する。(1-1)(1-2)</li> </ul>	Society 5.0 について調べる。	ビッグデータで用いられる3つのVやSociety 5.0 社会におけるデータやAI の利活用についてまとめる。		
2	AI 時代に求められる人材、データサイエンスの必要性、データ活用のプロセス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・AI 時代に求められる人材, データ活用を知る, データサイエンスの必要性, 価値を生み出すには, データサイエンスの使われ方(1-1)</li> <li>・データ活用のプロセス, データ収集, データへの変換, データの選択, オープンデータ, データ取得の注意点(情報倫理, 改ざん, 信ぴょう性, バイアス等)の説明。(3-1)(3-2)</li> </ul>	AI 時代に求められる人材について調べる。	データ取得の問題点について、今後求められる人材のスキル、目的設定等の設問に回答する。		

3	データ活用のプロセス、分析、考察、表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分析の内容として、データの前処理や統計解析について解説する。(2-1)</li> <li>・考察, 表現の内容として, 情報をデザイン, 表の表現, グラフの表現について, 説明し特に, 「正しいふりをしたデータ」にだまされないことを示す。(2-2)</li> </ul>	分析することについて調べる。	データクレンジング、表のデータを元に適切なグラフの選択に回答する。
4	分析手法を知る、Excel の基本、各種計算式、各種関数 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・データを読み分析手法を知るために、Excel の基本の習得を行う。計算式、数式のコピー、絶対参照と相対参照、合計、データの個数、最大値・最小値の演習を行う (2-3)</li> </ul>	基本的な Excel 関数を調べておく	基本的なエラーの対処、関数などについて基礎知識について回答する。
5	分析手法を知る、Excel の基本、各種計算式、各種関数 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・データを読み分析手法を知るために、Excel の基本の習得を行う。四捨五入・切り上げ・切り捨て、整数、順位付け、VLOOKUP 関数について演習する。(2-3)</li> </ul>	基本的な Excel 関数を調べておく	基本的なエラーの対処、関数などについて基礎知識について回答する。
6	分析手法を知る、Excel の基本、各種計算式、各種関数 3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・データを読み分析手法を知るために、Excel の基本の習得を行う。IF 関数、ネスト、AND 関数・OR 関数の演習を行う。(2-3)</li> </ul>	基本的な Excel 関数を調べておく	IF 関数及び判断方法について基礎知識について回答する
7	分析手法を知る、データベース活用の基本、ピボットテーブル	<ul style="list-style-type: none"> <li>・データベース活用の基本(並べ替え, オートフィルター, オートフィルターオプション, トップテン, ワイルドカード)の演習を行う。(2-3)</li> <li>・ピボットテーブル(ピボットテーブルの使用, レイアウトの変更, データフィールドの追加, 3項目での集計, アイテムを限定する, 集計方法の変更, データの更新)の演習を行う(2-3)</li> </ul>	データベースの基本について調べておく。	データベース用語、ワイルドカード、ピボットテーブルについての基礎的問題に回答する。
8	分析手法を知る、グラフ作成、縦棒グラフ等の各種グラフ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グラフ作成 (縦棒グラフ, 積み上げ縦棒グラフ, 100%積み上げ縦棒グラフ, 折れ線グラフ, 円グラフ, 最小値の変更, 目盛り間隔の変更, 千単位のグラフ, 複合グラフ) の演習を行う(2-2)</li> </ul>	グラフの種類について調査しておく	時間経過時の適切なグラフ、各種グラフで適切な表現について回答する。
9	分析手法を知る、標本調査、代表値等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・標本調査(標本調査, ランダムサンプリング)について解説する。(2-1)</li> <li>・代表値(平均値, 中央値, 最頻値)について演習を行う(2-1)</li> </ul>	基本的な標本調査方法について調査しておく	標本調査で必要な調査方法、適切な標本調査方法について回答する。
10	分析手法を知る、ばらつき、度数分布表、標準偏差、正規分布等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ばらつき(度数分布表, ヒストグラム, 分散, 標準偏差, 正規分布)について演習する。(2-1)</li> <li>・確率(統計的確率, 場合の数, 順列, 組合せ, 和の法則と積の法則)の基本を解説する。(2-1)</li> <li>・関係(散布図, 相関係数, 相関行列, 外れ値)について演習する。(2-1)</li> </ul>	標本調査で発生するばらつきについて調査しておく	確率や相関関係、相関係数、散布図について回答する。
11	分析手法を知る、回帰分析、回帰直線、回帰分析等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・回帰分析(回帰直線, 回帰式, 決定係数)について演習を行う。(2-1)</li> <li>・データの活用事例として、本当の主要顧客を発見して売上アップ(統計の活用事例を確認, 顧客分析を体験する, 「顧客分析」体験を振り返る)を参照して事例活用について解説する。(1-4)(1-5)</li> </ul>	回帰分析と活用事例について教科書を読んでおく	回帰分析、夏季法廷危機から導かれる問題、顧客分析の判断問題等について回答する。
12	データの活用事例に学ぶ、天気と売り上げの関係と効果的な販売・仕入	<ul style="list-style-type: none"> <li>・データの活用事例として本当の主要顧客を発見し売上アップ(統計の活用事例を確認)(1-5), 仕入れ計画を体験する, 「仕入れ計画」体験を振り返る)の事例を通した分析の解説を行う(1-4)(1-5)</li> </ul>	データ活用事例の教科書を読んでおく	天気と売上の関係、販売予測の目的、相関係数値が妥当なのか回答する

13	データの活用事例に学ぶ、統計的思考で商品の品質チェック 1	・統計的思考で商品の品質チェック(統計の活用事例を確認, サンプルングによる品質管理を体験する, 「品質管理」体験を振り返る)の事例の分析開設を行う(1-5)	活用事例での相関係数について調べておく	活用事例の相関係数の値から推測するものを回答する。
14	データの活用事例に学ぶ、統計的思考で商品の品質チェック 2	・統計的思考で商品の品質チェック(品質管理を体験する, 「品質管理」体験を振り返る)の事例の分析開設を行う(1-5)(2-1)	品質管理について調べておく	標本調査のメリット、標準誤差、標準偏差、品質の考え方について回答する
15	データ活用を实践する AI 入門演習	・データを活用するにあたって、現在使用されている生成 AI ツールについて説明し、Gemini を用いたコンテンツ生成等の利用方法について、実践演習を行う。(1-3)(1-6)	生成 AI がどのようなものがあるのか調べる	生成 AI を使用する場合の注意点等について回答する。
関連科目	情報基礎, 文書処理入門, 表計算入門			
資格				
教科書	はじめの第一歩 基礎からはじめる データサイエンス、noa 出版、2,200 円(税込)			
参考資料	電子資料は Classroom を用いて提示・配布する。			
連絡先	E-Mail : kamaga-lec@shokei-gakuen.ac.jp 九品寺キャンパス 九品寺 7 号館 5 階 研究室 21			
オフィスアワー	授業の前後で質問を受け付ける。			
備考	<p>※情報処理教室の定員を超える履修登録があった場合、何らかの履修制限を設ける可能性がある。</p> <p>【ICT を活用した自主学習型授業】 Classroom を用いて、課題の配布・提出やフィードバックを行う</p> <p>【オープン教育リソース】 授業で使用する演習データを教材として配布し、使用する。 部分的に熊本県から提供された「くまモン」に関するデータを使用しての実習</p> <p>【アクティブ・ラーニング】 実習 クラスコードは基本的に教師側から学生へ直接招待メールを送信する。</p>			

科目名	単位数	担当者	履修年	学期	授業形態	履修区分
数理・データサイエンス・AI 入門	1.0	中村 佐里	1年	後期	演習	選択
授業概要	これからの時代を生きる社会人には、データを分析し、その結果を活用する力や、データサイエンス、生成AIなどの新しい技術に関する素養が求められている。本演習では、新しい技術がどのように活用されているかを概観するとともに、さまざまなデータを利活用するための基礎的な知識やスキルを身につける。					
キーワード	データサイエンス、ビッグデータ、IoT、生成AI（人工知能）、統計学					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会や日常生活において、データやAIを活用する意義や方法を説明できる。</li> <li>・さまざまなデータを適切に読み取り、分析した結果を日常生活に生かすことができる。</li> <li>・個人情報保護の重要性や、データやAIを活用する際のリスクについて説明できる。</li> </ul>					
受講生に臨むこと	これからの時代を生きる皆さんにとって、データサイエンスやAIに関する知識やスキルは「読み書きそろばん」ともいえる重要なものです。数学が苦手な人にも分かりやすいよう、身近な活用事例を中心に学びますので、ぜひ新しい技術やスキルに関心を広げてください。					
課題と評価の方法	① 学習の状況や取り組み：毎回のリフレクションカードや実習ファイルの提出（50%） ② データ分析演習：第13, 14回に実施（20%） ③ まとめ：授業全体のまとめ（30%） 以上により、到達目標に対する達成状況を総合的に評価する。					

授業と学位授与方針（DP）との関連

DP1	保育専門職また社会人として豊かな教養に支えられた総合的な人間力を身につけている。	◎
DP2	社会に貢献し得る専門的知識・技能を常に求めて学び続けるとともに、研究を深めて課題を発見・解決する力を身につけている。	
DP3	一人一人の子どもへの深い洞察と環境への理解に基づき、保育・教育を構想・実践・評価し向上させる力を身につけている。	
DP4	特別な支援を必要とする子どもに対して、適切な理解に基づいて保育を実践し、育ちを支える力を身につけている。	
DP5	保護者など子どもを取り巻く人々に対し共感をもって深く理解し、援助しつつともに子どもを育てていく力を身につけている。	
DP6	家庭や地域社会とのつながりを重視し、周囲と連携・協働して安全に組織を運営していく力を身につけている。	

回	授業計画	講義内容	事前学修	事後学修
①	社会で起きている変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業ガイダンス（授業目標、授業計画、評価方法など）</li> <li>・Society 5.0やビッグデータを手がかりに、社会の変化とデータ・AI活用の広がりについて理解する。また、AIの歴史や今後の展望、データ・AI利活用の最新動向について概観する。（1-1）（1-6）</li> </ul>	Society 5.0について調べる。	授業内容を踏まえ、Society 5.0社会におけるデータやAIの利活用の中から、関心をもったものについてまとめる。
2	データやAIを活用するとは？（活用領域、利活用技術、利活用の現場など）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会で活用されているデータの種類や活用している領域（流通、製造、金融、サービス、公共など）について概観し、1次データと2次データの違い、データを活用するための整備の方法（データのメタ化）について学ぶ。（1-2）（1-3）（1-4）（1-5）</li> <li>・オープンデータの意義と活用方法を理解し、データ活用の具体例について考える。（1-2）（1-3）（1-4）（1-5）</li> </ul>	1次データと2次データの違いについて調べ、具体例を考える。	授業で扱った内容を踏まえ、オープンデータの活用方法や活用場面についてまとめる。
3	データ・AI利活用を支	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビッグデータ、IoT、AIなど、データ・AI利</li> </ul>	ビッグデータ、	授業で扱った

	える技術	活用を支える基盤的な技術の概要を理解する。(1-1) (1-3) (1-4) ・これらの技術が組み合わせることで、社会や日常生活の中でどのような価値が生まれているかを考える。(1-1) (1-3) (1-4)	IoT, AI, 生成AIの意味を調べる。	技術の中から一つ選び、具体的な活用例についてまとめる。
4	データや AI を扱う上での留意事項(個人情報保護, 情報モラル, 情報セキュリティ)	・個人情報の保護をはじめ, データや AI を活用する際に必要となる情報モラル, 情報セキュリティ, データのねつ造, 改ざん, プライバシー保護といったデータ倫理などの基本的な留意点について学ぶ。(3-1)	個人情報とは何かを調べ, どのような情報が個人情報にあたるかを考える。	データや AI を活用する上で必要な配慮についてまとめる。
5	データを守る上での留意事項(情報セキュリティ)	・情報セキュリティの基本的な考え方である機密性, 完全性, 可用性について理解し, 日常生活における具体的な対策(ユーザ認証やパスワードなど)について考える。(3-2)	自分の情報やデータを守るために, 普段から気をつけていることをまとめる。	グループで話し合った内容を踏まえ, よりよい情報セキュリティ対策についてまとめる。
6	社会や日常生活で利用されるさまざまなデータ	・社会や日常生活で利用されている多様なデータの例を取り上げ, それらがどのような場面で活用されているかを理解する。(1-2) (2-1) ・身近な事例をもとに, データの収集方法や活用の在り方について検討する。(1-2) (2-1)	身の回りで使われているデータにはどのようなものがあるかを考える。	授業で扱ったデータの中から関心をもったものを1つ選び, どのように活用されているかをまとめる。
7	データの活用と必要なスキル	・社会や日常生活におけるデータ活用の具体例を確認し, データの収集, 整理, 分析, 活用という基本的な流れを理解する。(2-3) ・Excel や Google スプレッドシートを用いた実習の進め方を確認し, 今後の学修に必要な基本操作を復習する。(2-3)	情報処理で学んだ Excel の基本操作について振り返る。	授業で扱ったデータ活用の流れと必要なスキルについて整理する。
8	データの処理と要約	・Excel を用いてデータの入力, 並べ替え, 集計等の基本的な操作を行い, データ処理の基礎を学ぶ。(2-3) ・データを整理し, 要約することを通して, 必要な情報を把握する方法を理解する。(2-3)	Excel の基本的な機能について確認する。	課題を通して, 授業で扱ったデータの整理方法や要約の仕方について振り返る。
9	データの表現とグラフの活用	・棒グラフ, 折れ線グラフ, 円グラフなどの基本的なグラフの特徴を理解する。(2-2) ・Excel を用いてグラフを作成し, データの内容に応じて適切なグラフを選択する方法を学ぶ。(2-2)	代表的なグラフの種類と, それぞれがどのようなデータの表現に適しているかを調べる。	授業で扱ったグラフの中から1つ選び, その活用場面についてまとめる。
10	データの見方①: 代表値	・平均値, 中央値, 最頻値などの代表値の意味と特徴を理解する。(2-1) ・具体例を通して, 代表値の違いによってデータの捉え方が異なることを学ぶ。(2-1)	平均値, 中央値, 最頻値について調べ, それぞれの意味を確認する。	与えられたデータについて, 平均値, 中央値, 最頻値を求め, それぞれの違いを簡潔に説明する。
11	データの見方②: ばらつき(ヒストグラム・分散・標準偏差)	・ヒストグラムの見方を理解し, データの分布やばらつきの特徴を読み取る方法を学ぶ。(2-1) (2-2) ・平均だけでは把握できないデータの特徴が	ヒストグラム, 分散, 標準偏差について調べ, それぞれが何	授業で作成したヒストグラムをもとに, データの分布や

		あることを理解し、分散および標準偏差の考え方を学ぶ。(2-1) (2-2) ・Excel を用いてヒストグラムや数値を求め、データのばらつきの程度を把握する。(2-1) (2-2)	を表すかを確認する。	ばらつきの特徴について整理する。
12	データの見方③: 相関と散布図	・散布図の見方を理解し、二つの変数の関係を読み取る方法を学ぶ。(2-1) (2-2) ・相関の考え方を理解し、複数のデータの関連について検討する。(2-1) (2-2)	散布図と相関について調べ、二つのデータの関係を表す方法を確認する。	与えられた二つのデータから散布図を作成し、見られる傾向について説明する。
13	データの比較: クロス集計	・クロス集計表の見方と作り方を理解し、項目ごとの違いを比較する方法を学ぶ。(2-1) (2-2) ・Excel を用いて簡単なクロス集計表を作成し、傾向を読み取る。(2-1) (2-2)	クロス集計表について調べ、どのような場合に用いられるかを確認する。	与えられたデータからクロス集計表を作成し、読み取れることをまとめる。
14	身近なデータの分析①	・オープンデータ等を活用し、言語や文化、食や栄養、保育・教育、地域に関する身近なデータを収集・整理する。(2-2) (2-3) ・地域に関するデータの例として、くまモンに関するデータも取り上げ、これまでに学んだ方法を用いて分析する。(2-2) (2-3)	自分の専門や関心のある分野（言語や文化、食や栄養、保育・教育、地域など）に関するデータにはどのようなものがあるかを調べる。	授業で扱ったデータの分析結果を整理し、グループで共有する内容をまとめる。
15	身近なデータの分析②	・分析した結果をもとに、データの特徴や活用の可能性について考察する。(2-2) ・少人数のグループで分析結果を共有し、データ活用の意義や課題について振り返る。(2-2)	前回の分析結果を見直し、発表や共有に向けて内容を整理する。	グループでの共有を踏まえ、データ活用を行う上で重要だと感じたことをまとめる。

関連科目	情報処理 I, 情報処理 II, 保育 ICT 演習
資格	IT パスポート, 統計検定 (3 級・4 級レベル)
教科書	はじめの第一歩 基礎からはじめる データサイエンス、noa 出版、2,200 円 (税込)
参考資料	電子資料は Classroom を用いて提示・配布する。
連絡先	E-Mail : snakam@shokei-gakuen.ac.jp   武蔵ヶ丘キャンパス 管理棟 3 階研究室
オフィスアワー	火曜 : 12 : 00 ~ 13 : 00 木曜 : 12 : 00 ~ 13 : 00
備考	<p>※授業ではパソコンを利用するため、自分のパソコンを充電して持ってくること。</p> <p>【実務経験のある教員】富士通株式会社での実務経験を活かし、情報技術やデータに関わる知識、分析手法、アプリケーション活用に関するスキルの習得を支援する。</p> <p>【アクティブ・ラーニング】グループディスカッションやプレゼンテーションを行い知識の共有を図る。</p> <p>【ICT を活用した自主学習型授業】Classroom を利用し、課題の配布・提出やフィードバックを行う。</p> <p>【オープン教育リソース】授業で使用する演習データを教材として使用し、授業時に配布する。</p> <p>【科目ナンバリング】U3-A-1-01</p>

# 現代文化学部カリキュラムツリー

分類	領域	ディプロマポリシー	養うべき力	カリキュラムポリシー	科目名及び学びの系統図											
					1年前期	1年後期	2年前期	2年後期	3年前期	3年後期	4年前期	4年後期				
教養教育科目	全学共通開講科目	現代文化学部は、建学の精神の目的に則り、以下の能力を身に付け、所定の単位を修得した学生に卒業を認定し、「学士(文学)」の学位を授与します。 (1)日本語および外国語の運用能力に基づき、高度なコミュニケーション力を修得している。 (2)伝統的および現代の日本文化に関する深い知識に基づき、古代から現代に至る日本文化を調査・分析する能力を修得している。 (3)高度情報化とグローバル化が進行した日本の地域社会・地域文化、および東アジアの社会文化に関する幅広い知見に基づき、日本社会・文化に関する諸問題を調査・分析する力を修得している。 (4)上述の能力を総合的に活用して、ビジネスや行政の場で協働して問題を解決できる。	地域社会の現状や特性を学ぶ、日本伝統文化への理解を深める	学習方法から社会人基礎力までの力をつける	熊本学	国際・データサイエンス・AI入門										
	教養基礎				初年次教育	基礎セミナー	基礎セミナー									
					日本語運用能力養成	日本語表現Ⅰ	日本語表現Ⅱ	クリティカル・リーディング								
	人間と文化				キャリア形成	キャリア形成入門	キャリアデザインⅠ	キャリアデザインⅡ	プレ・インターンシップ	インターンシップ						
					文化理解	日本伝統文化Ⅰ	日本伝統文化Ⅱ	日本文学	国際日本学	アジアの文化と歴史	日本史					
	社会と人間				社会理解	文化・社会・歴史・教育・メディア等に関する基礎知識をつける	情報処理、統計学、外国語科目、日本語運用力関連科目を提供し、大学での学びおよび社会で必要とされている基本的スキルを育成する	政治と社会	法と社会	女性と社会	日本国憲法	人権論				
					調査分析基礎	文化・社会・歴史・教育・メディア等に関する基礎知識をつける	情報処理、統計学、外国語科目、日本語運用力関連科目を提供し、大学での学びおよび社会で必要とされている基本的スキルを育成する	経済と社会	地域と観光	地方自治入門	心理学					
	多文化コミュニケーション				英語	外国語の基礎力をつける	情報処理Ⅰ	英語ⅠA	英語ⅠB	英語ⅠC						
					中国語			英語ⅡA	英語ⅡB	英語ⅡC						
	海外語学研修				韓国語	基礎体力及び健康管理能力を養う	専門領域の基礎知識をつける	初級中国語Ⅰ	初級中国語Ⅱ	初級中国語Ⅲ	初級中国語Ⅳ	中国語コミュニケーションⅠ	中国語コミュニケーションⅡ			
海外語学研修		初級韓国語Ⅰ	初級韓国語Ⅱ	初級韓国語Ⅲ	初級韓国語Ⅳ			韓国語コミュニケーションⅠ	韓国語コミュニケーションⅡ							
専門教育科目	英語	実践的な英語・中国語・韓国語の運用能力をつける	実践的な外国語運用能力を育成する	海外語学研修(英語Ⅰ)	海外語学研修(英語Ⅱ)	海外語学研修(中国語Ⅰ)	海外語学研修(中国語Ⅱ)	海外語学研修(韓国語Ⅰ)	海外語学研修(韓国語Ⅱ)							
	中国語			現代文化入門Ⅰ	現代文化入門Ⅱ	文学研究概論	日本文学史	メディア表現論	映像表現論	現代東アジア事情	異文化理解	地域コミュニティ論	観光まちづくり論			
実践外国語科目	韓国語	実践的な英語・中国語・韓国語の運用能力をつける	実践的な外国語運用能力を育成する	社会調査法	人間関係論	マーケティング論	質的調査法	社会コミュニケーション実践論	社会学概論	プレゼンテーション演習Ⅰ	プレゼンテーション演習Ⅱ	詳細探求プロジェクト演習Ⅰ	詳細探求プロジェクト演習Ⅱ			
	英語			実践的な英語・中国語・韓国語の運用能力をつける	実践的な外国語運用能力を育成する	サファルチャーで学ぶ中国語	台湾華語	サファルチャーで学ぶ韓国語	応用韓国語	英会話	検定英語Ⅰ	検定英語Ⅱ	検定英語Ⅲ	応用英語		
日本語教育	韓国語	実践的な英語・中国語・韓国語の運用能力をつける	実践的な外国語運用能力を育成する	日本語学概論	音声言語	日本語史	心理言語学	日本語教授法	日本語教育実習							
	英語			実践的な英語・中国語・韓国語の運用能力をつける	実践的な外国語運用能力を育成する	表現文化概論	文芸文化論講義Ⅰ	文芸文化論講義Ⅱ	文芸文化特論							
文芸文化	英語	実践的な英語・中国語・韓国語の運用能力をつける	実践的な外国語運用能力を育成する	中国古典文化概論	表現ワークショップⅠ	表現ワークショップⅡ	声の文化論演習Ⅰ	声の文化論演習Ⅱ	書道Ⅰ	書道Ⅱ	物語生成論	キャラクター生成論				
	韓国語			実践的な英語・中国語・韓国語の運用能力をつける	実践的な外国語運用能力を育成する	情報デザイン論	Webデザイン演習Ⅰ	Webデザイン演習Ⅱ	文化社会学	ジェンダー表象論	広告文化論	情報社会学	アート表現論Ⅰ	アート表現論Ⅱ		
情報メディア文化	韓国語	実践的な英語・中国語・韓国語の運用能力をつける	実践的な外国語運用能力を育成する	国際関係論	東アジア関係史	台湾社会文化論	中国語と現代文化	韓国社会文化論	韓国語と現代文化	多文化共生論	国際社会と女性					
	英語			実践的な英語・中国語・韓国語の運用能力をつける	実践的な外国語運用能力を育成する	観光総論	コンテンツ・ツーリズム論	インバウンド・ツーリズム論	観光文化フィールドスタディ	観光産業論	地域コミュニティ創造論演習	地域ビジネス創造論演習	メディアと観光	地域マネジメント演習Ⅰ	地域マネジメント演習Ⅱ	
日本・東アジア社会文化	韓国語	実践的な英語・中国語・韓国語の運用能力をつける	実践的な外国語運用能力を育成する	観光総論	コンテンツ・ツーリズム論	インバウンド・ツーリズム論	観光文化フィールドスタディ	観光産業論	地域コミュニティ創造論演習	地域ビジネス創造論演習	メディアと観光	地域マネジメント演習Ⅰ	地域マネジメント演習Ⅱ			
	英語			実践的な英語・中国語・韓国語の運用能力をつける	実践的な外国語運用能力を育成する	表現コミュニケーション演習Ⅰ	表現コミュニケーション演習Ⅱ	卒業研究Ⅰ	卒業研究Ⅱ							
観光文化	韓国語	実践的な英語・中国語・韓国語の運用能力をつける	実践的な外国語運用能力を育成する	表現コミュニケーション演習Ⅰ	表現コミュニケーション演習Ⅱ	卒業研究Ⅰ	卒業研究Ⅱ									
	英語			実践的な英語・中国語・韓国語の運用能力をつける	実践的な外国語運用能力を育成する	卒業研究Ⅰ	卒業研究Ⅱ									

現代文化学部カリキュラムマップ(司書課程)

課程	群	ディプロマポリシー	養うべき力	区分	科目名及び学びの系統図								
					1年前期	1年後期	2年前期	2年後期	3年前期	3年後期	4年前期	4年後期	
司書課程	甲群	司書として職務を遂行するにあたり必要な基礎的知識及び技能を修得し、各種の図書館において即戦力として勤務することができる能力を身に付ける	図書館及び地方行政、関連法規等に関する基礎的知識	基礎科目	生涯学習概論	図書館情報技術論	図書館制度・経営論						
			図書館サービスに関する知識・技能	図書館サービスに関する科目	図書館サービス概論	児童サービス論	情報サービス論	情報サービス演習(A)	情報サービス演習(B)				
	乙群	必修科目で学んだ内容に関する発展的学習	選択必修科目	図書館情報資源に関する知識・技能	図書館情報資源に関する科目	図書館情報資源概論	情報資源組織論	情報資源組織演習(A)	情報資源組織演習(B)				

■ 必修科目 ■ 選択必修科目 ■ 選択科目

# 生活科学部カリキュラムツリー

令和7年度入学者用

カリキュラムツリー(教育課程編成・実施方針)

CP1 大学教育への円滑な導入を図る初年次教育として、自主的  
的思考力を涵養し、汎用的  
技能と専門的知識の修得に  
必要な基礎学力を身につけ  
るための科目を配置します。

CP2 幅広く深い教養を培い、豊かな  
情操や高い倫理観を涵養  
するための、教養教育科目を  
配置します。

CP1 大学教育への円滑な導入を図る  
初年次教育として、自主的  
的思考力を涵養し、汎用的  
技能と専門的知識の修得に  
必要な基礎学力を身につけ  
るための科目を配置します。

CP3 栄養士養成課程及び管理栄養  
士養成課程として必要な  
科目を中核とし、管理栄養士  
に必要な高度な専門的知識  
・技能を育成するために、  
専門教育科目(専門基礎分  
野及び専門分野)を段階的、  
系統的に展開します。また、  
適切な態度・倫理観、さらに  
それを背景としたコミュニ  
ケーション力を育成するた  
めに、実習・実習を体系的  
に配置します。

CP4 栄養士・管理栄養士としての  
前庭的思考力・判断力、社会  
性、協調性を育成するた  
めに、専門的知識と技能の統  
合的・実践的学修の場とし  
て、「管理栄養士総合演習」  
「臨床実習」「卒業研究」を配  
置します。

CP5 栄養教諭が備えるべき教育  
学的見識と十分な指導・教育  
力を育成するために、教養教  
育および専門教育と連動す  
るため、栄養教諭一種  
免許状取得を目指す教職課  
程を配置します。

CP6 食品衛生監視員(任用資  
格)、食品衛生管理者(任用  
資格)、その他の資格を取得  
するための科目を配置しま  
す。

CP7 将来の幅広いキャリアアップ  
選択を促すため、入学時から  
意識的に進路を熟慮する機  
会を設け、食・医療・栄養教  
育に関する専門的知識と技  
能を深める場として、「スキル  
アッププログラム」を配置し  
ます。

履修区分		必修科目(漢語・漢語)		必修科目(英語・英語)		必修科目(語地英語)		選択必修科目		選択必修科目		選択必修科目		選択科目		目標(養うべき力)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
授業科目区分		1年次		2年次		3年次		4年次																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
		前期		後期		前期		後期		前期		後期		前期		後期																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
教養科目	全学共通開講科目	熊本学 日本伝統文化入門 数学・データサイエンス・AI入門														・地域社会の現状や日本伝統文化への理解。【態度・志向性】 ・大学生が修得すべき基礎的デジタル・スキルの理解。【知識・理解】																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
	学部学科開講科目	<table border="1"> <tr> <td>教養基礎</td> <td>基礎セミナー</td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td></td> <td>基礎数学</td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td></td> <td>日本語表現</td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td></td> <td>情報基礎</td> <td colspan="2">表計算入門</td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2">プレゼンテーション入門</td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td></td> <td>文書処理入門</td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>多文化コミュニケーション/外国語</td> <td>英語 I A(基礎1)</td> <td>英語 I B(基礎2)</td> <td>英語 II A(応用1)</td> <td>英語 II B(応用2)</td> <td>英語 II C(応用コミュニケーション)</td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td></td> <td>海外語学研修(英語)</td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td></td> <td>中国語 I(会話1)</td> <td>中国語 II(会話2)</td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td></td> <td>韓国語 I(会話1)</td> <td>韓国語 II(会話2)</td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>海外語学研修(韓国語)</td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>人間と文化</td> <td>心理学</td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>倫理学</td> <td>文学</td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>臨床発達心理学</td> <td>臨床心理学</td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>社会と人間</td> <td>女性と社会</td> <td>日本国憲法</td> <td>社会学</td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td></td> <td>人権論</td> <td>生涯学習概論</td> <td>グローバルスタディ概論</td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>経済学</td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>自然と生命</td> <td>化学入門</td> <td>体育 II(実技2)</td> <td>健康の科学</td> <td>環境の科学</td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td></td> <td>体育 I(実技1)</td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> </tr> </table>														教養基礎	基礎セミナー																		基礎数学																		日本語表現																		情報基礎	表計算入門				プレゼンテーション入門													文書処理入門																	多文化コミュニケーション/外国語	英語 I A(基礎1)	英語 I B(基礎2)	英語 II A(応用1)	英語 II B(応用2)	英語 II C(応用コミュニケーション)														海外語学研修(英語)																		中国語 I(会話1)	中国語 II(会話2)																		韓国語 I(会話1)	韓国語 II(会話2)																			海外語学研修(韓国語)																	人間と文化	心理学																			倫理学	文学																	臨床発達心理学	臨床心理学															社会と人間	女性と社会	日本国憲法	社会学																人権論	生涯学習概論	グローバルスタディ概論																	経済学																	自然と生命	化学入門	体育 II(実技2)	健康の科学	環境の科学																体育 I(実技1)																	・建学の精神、教育理念の理解。【態度・志向性】 ・管理栄養士の使命や役割、活動分野の理解。【態度・志向性】
	教養基礎	基礎セミナー																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
		基礎数学																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
		日本語表現																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
		情報基礎	表計算入門				プレゼンテーション入門																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																		
		文書処理入門																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
	多文化コミュニケーション/外国語	英語 I A(基礎1)	英語 I B(基礎2)	英語 II A(応用1)	英語 II B(応用2)	英語 II C(応用コミュニケーション)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																			
		海外語学研修(英語)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
		中国語 I(会話1)	中国語 II(会話2)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
	韓国語 I(会話1)	韓国語 II(会話2)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
		海外語学研修(韓国語)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
人間と文化	心理学																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
		倫理学	文学																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
		臨床発達心理学	臨床心理学																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
社会と人間	女性と社会	日本国憲法	社会学																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
	人権論	生涯学習概論	グローバルスタディ概論																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
		経済学																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
自然と生命	化学入門	体育 II(実技2)	健康の科学	環境の科学																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
	体育 I(実技1)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
		<table border="1"> <tr> <td>倫理学</td> <td>文学</td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>生涯学習概論</td> <td>グローバルスタディ概論</td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>経済学</td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>健康の科学</td> <td>環境の科学</td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> </tr> </table>														倫理学	文学																	生涯学習概論	グローバルスタディ概論																	経済学																			健康の科学	環境の科学																	・栄養専門職としての資力向上、スキルアップのための基礎知識と応用力。【知識・理解】																																																																																																																																																																																																																																																																
倫理学	文学																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
生涯学習概論	グローバルスタディ概論																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
経済学																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
健康の科学	環境の科学																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
		<table border="1"> <tr> <td>心理学</td> <td>臨床発達心理学</td> <td>臨床心理学</td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>倫理学</td> <td>文学</td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>生涯学習概論</td> <td>グローバルスタディ概論</td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>経済学</td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>健康の科学</td> <td>環境の科学</td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> </tr> </table>														心理学	臨床発達心理学	臨床心理学																	倫理学	文学																			生涯学習概論	グローバルスタディ概論																			経済学																			健康の科学	環境の科学																			・自分の力で課題を発見し、自己学習によって解決する力。【汎用的技能】																																																																																																																																																																																																																																							
心理学	臨床発達心理学	臨床心理学																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
倫理学	文学																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
生涯学習概論	グローバルスタディ概論																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
経済学																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
健康の科学	環境の科学																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
		<table border="1"> <tr> <td>倫理学</td> <td>文学</td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>生涯学習概論</td> <td>グローバルスタディ概論</td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>経済学</td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> </tr> <tr> <td>健康の科学</td> <td>環境の科学</td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> <td colspan="2"></td> </tr> </table>														倫理学	文学																			生涯学習概論	グローバルスタディ概論																			経済学																					健康の科学	環境の科学																			・生命倫理、職業倫理の理解と修得。【態度・志向性】																																																																																																																																																																																																																																																								
倫理学	文学																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
生涯学習概論	グローバルスタディ概論																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								
経済学																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
健康の科学	環境の科学																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																								

ディプロマポリシー(学位授与方針)

DP1 幅広い社会的関心と教養を有するとともに、社会人としての使命感・倫理観を涵養し、豊かな人間性に基づく優れたコミュニケーション力を身につけている。

DP2 栄養・健康・医療に関する専門的知識を基礎とした実践的能力を修得するとともに、科学的かつ数理統計的な視野により最新の情報を総合的に理解・分析・活用できる能力を身につけている。

専門的能力

DP2 栄養・健康・医療に関する専門的知識を基礎とした実践的能力を修得するとともに、科学的かつ数理統計的な視野により最新の情報を総合的に理解・分析・活用できる能力を身につけている。

専門的能力

DP3 食や食品等に関する専門的知識としての役割を理解し、食品・食品加工・食品開発等の専門的知識を有し、社会に貢献しようとする態度を備えている。

総合的な学習態度と創造的思考力

DP4 積み上げてきた体系的知識・技能を用いて、保健・医療・福祉・食品・教育・行政分野等の課題に対して、専門職としての確かな考察・判断を行う能力を持ち、他職種との連携のもと、貢献に寄与する能力を身につけている。

# こども教育学部カリキュラムツリー

令和7年度入学者用

こども教育学部 カリキュラム・ポリシー	1年次		2年次		3年次		4年次		こども教育学部 ディプロマ・ポリシー	幼稚園教員に求められる専門性 (H14.6 幼稚園教員の資質向上について(報告))	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
<p>CP1 大学教育への円滑な導入を図る初年次教育として、思考力を涵養し、汎用的技能と専門的知識の修得に必要な基礎学力を身につけるための科目を配置します。</p> <p>CP2 幅広く深い教養を培い、豊かな情操や高い倫理観を涵養するために、教養教育科目を配置します。</p>	<p>全学共通開講科目</p>	熊本学 1	日本伝統文化入門 1						<p>DP1 保育専門職または社会人として豊かな教養に支えられた総合的な人間力を身につけている。</p>	<p>①幼稚園教員としての資質 ②幼児理解・総合的に指導する力 ③具体的に保育を構想する力、実践力 ④得意分野の育成、教員集団の一員としての協働性 ⑤特別な教育的配慮を要する幼児に対応する力 ⑥小学校や保育所との連携を推進する力 ⑦保護者及び地域社会との関係を構築する力 ⑧延長などの管理職が発揮するリーダーシップ ⑨人権に対する理解</p>	
		基礎セミナー 1	キャリアデザイン 1	日本語表現 I 1	日本語表現 II 2			キャリアトレーニング 1			
		心理学 2	生命倫理 2	音楽 2							
		女性と社会 2	人権教育 2								
<p>CP3 幼稚園教諭養成課程及び保育士養成課程として必要な資質・能力を養うために必要な科目を中心に専門教育科目を段階的、系統的に配置します。また保育者として学び続ける態度を涵養するとともに、実習・実習指導・実践演習等を系統的に配置し、省察を深め資質・能力の向上を図ります。</p> <p>CP6 幼児教育、保育、特別支援教育について専門性を深めるための科目を系統的に配置し、4年次では、それまでに培った実践力・研究力を基に卒業研究を行います。</p> <p>CP5 幼児教育、保育、特別支援教育の専門職としての対人的な基本的資質・能力を育成し、他者との適切なコミュニケーションにおいて受容・理解・共感し、周囲と連携・協働しながら安全に組織を運営する力を身につけるための科目を配置します。</p>	<p>教養教育科目</p>	食の健康科学 2		子どもと環境 1					<p>DP2 社会に貢献し得る専門的知識・技能を常に求め学び続けるとともに、研究を深めて課題を発見・解決する力を身につけている。</p>	<p>保育士に求められる主要な知識及び技術 (H30.2 保育所保育指針解説)</p>	
		保健体育 1		体育実技 II 1							
		英語 I A / I B 1	英語 II A / II B 1					海外語学研修(英語) 1			
		中国語 I 1	中国語 II 1					海外語学研修(中国語) 1			
<p>CP4 特別な支援を必要とする乳幼児を理解し、保育する力を養うための科目を系統的に配置します。また特別支援学校教諭の養成課程を設け、特別な支援について、より学びを深めることができるようにします。</p>	<p>多文化コミュニケーション/外国語</p>	韓国語 I 1	韓国語 II 1				海外語学研修(韓国語) 1		<p>DP3 一人一人の子どもへの深い洞察と環境への理解に基づき、保育・教育を構想・実践・評価し向上させる力を身につけている。</p>	<p>①これからの社会に求められる資質を踏まえながら、乳幼児期の子どもの発達に関する専門的知識を基に子どもの育ちを見通し、一人一人の子どもの発達を援助する知識及び技術 ②子どもの発達過程や意欲を踏まえ、子ども自身が生活していく力を細やかに助ける生活援助の知識及び技術 ③保育所内外の空間や様々な設備、遊具、素材等の物的環境、自然環境や人的環境を生かし、保育の環境を構成していく知識及び技術 ④子どもの経験や興味や関心に応じて、様々な遊びを豊かに展開していくための知識及び技術 ⑤子ども同士の関わりや子どもと保護者の関わりなどを見守り、その気持ちに寄り添いながら適宜必要な援助をしていく関係構築の知識及び技術 ⑥保護者等への相談、助言に関する知識及び技術</p>	
		情報・ICT	情報処理 I 1	情報処理 II 1	プレゼンテーション演習 1						
		教育・保育の探求	教育原理 2		保育・教育課程論 2	保育者論 2		保育ICT演習 1			
		保育原理 2		教育心理学 2							
<p>CP4 特別な支援を必要とする乳幼児を理解し、保育する力を養うための科目を系統的に配置します。また特別支援学校教諭の養成課程を設け、特別な支援について、より学びを深めることができるようにします。</p>	<p>専門科目</p>	基礎演習 II 1	保育・幼児教育研究法 I 1	保育・幼児教育研究法 II 1	保育・幼児教育研究 I 1	保育・幼児教育研究 II 1	保育・幼児教育研究 III 1	保育・幼児教育研究 IV 1	<p>DP5 保護者など子どもを取り巻く人々に対し共感をもって深く理解し、援助しつつも子どもを育てていく力を身につけている。</p>	<p>特別支援学校教員に求められる専門性 (H19.4 教育職員免許法改正)</p>	
		卒業研究・卒業論文 1									
		保育内容総論 1		教育方法論 I 2	教育方法論 II 1						保育・教職実践演習 2
		保育内容-健康 1	保育内容-環境 1	保育内容-音楽表現 1	幼児理解 1	教育相談 2					
<p>CP4 特別な支援を必要とする乳幼児を理解し、保育する力を養うための科目を系統的に配置します。また特別支援学校教諭の養成課程を設け、特別な支援について、より学びを深めることができるようにします。</p>	<p>保育・保育の知識・技能</p>	保育内容-言葉 1	保育内容-造形表現 1						<p>DP6 家庭や地域社会とのつながりを重視し、周囲と連携・協働して安全に組織を運営していく力を身につけている。</p>	<p>①5つの障害種別(視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由、病弱)に共通する専門性として、特別支援教育全般に関する基礎的な知識(制度的・社会的背景・動向等) ②それぞれの障害種別ごとの専門性として、各障害種の幼児児童生徒の心理(発達を含む)・生理・病理に関する一般的な知識・理解や教育課程、指導法に関する深い知識・理解及び実践的指導力 ③特別支援学校のセンター的機能を果たすために必要な知識や技能(特別支援学校の特別支援教育コーディネーターには、小・中学校に比し、より幅広い専門性が要求される)</p>	
		健康の指導法 2	環境の指導法 2	表現(音楽)の指導法 1	人間関係の指導法 2	複合領域の指導法 I 2	複合領域の指導法 II 2				
		音楽基礎 1	器楽 I 1	器楽 II 1	器楽 III 1	器楽 IV 1					
			言葉の指導法 2	表現(造形)の指導法 1							
<p>CP4 特別な支援を必要とする乳幼児を理解し、保育する力を養うための科目を系統的に配置します。また特別支援学校教諭の養成課程を設け、特別な支援について、より学びを深めることができるようにします。</p>	<p>子育て支援</p>	基礎演習 I 1	子どもの保健 2	乳児保育 I 2	乳児保育 II 1	子どもの食と栄養 2	食育論 2		<p>DP4 特別な支援を必要とする子どもに対して、適切な理解に基づいて保育を実践し、育ちを支える力を身につけている。</p>	<p>特別支援学校教育実習指導 1 特別支援学校教育実習 2</p>	
		教育実習指導 I 1	教育実習指導 II 1								
		保育実習 I A 2	保育実習 I B 2	保育実習 II 2	保育実習 III 2						
		教育実習 I 1	教育実習 II 3								
<p>CP4 特別な支援を必要とする乳幼児を理解し、保育する力を養うための科目を系統的に配置します。また特別支援学校教諭の養成課程を設け、特別な支援について、より学びを深めることができるようにします。</p>	<p>教育・保育の連携・協働</p>	子ども家庭支援の心理学 2				子ども家庭支援論 2	子育て支援 1		<p>DP4 特別な支援を必要とする子どもに対して、適切な理解に基づいて保育を実践し、育ちを支える力を身につけている。</p>	<p>特別支援学校教育実習指導 1 特別支援学校教育実習 2</p>	
		子ども家庭福祉 2									
		社会的養護 I 2									
		社会的養護 II 1									
<p>CP4 特別な支援を必要とする乳幼児を理解し、保育する力を養うための科目を系統的に配置します。また特別支援学校教諭の養成課程を設け、特別な支援について、より学びを深めることができるようにします。</p>	<p>特別な支援を必要とする子どもの理解と援助</p>	社会福祉 2				保育における連携・接続 2	保育マネジメント論 2		<p>DP4 特別な支援を必要とする子どもに対して、適切な理解に基づいて保育を実践し、育ちを支える力を身につけている。</p>	<p>特別支援学校教育実習指導 1 特別支援学校教育実習 2</p>	
		知的障害児の心理・生理・病理 2	知的障害児教育論 2	知的障害児の言語指導 2							
		知的障害児教育論 2	療育論 2	療育論演習 1							
		知的障害児教育論 2	療育論 2	療育論演習 1							

赤字: 卒業必修科目  
黒字: 卒業選択科目

幼稚園免許科目  
保育士資格科目  
特別支援免許科目  
幼稚園教諭・保育士資格科目

#### (4) プログラム改善・進化体制の設置規則等

##### 尚綱大学・尚綱大学短期大学部データサイエンス教育部会規程

###### (趣旨)

第1条 本規程は、尚綱大学・尚綱大学短期大学部教務連絡協議会規程第10条の規定に基づき、尚綱大学・尚綱大学短期大学部データサイエンス教育部会（以下「部会」という。）に関し必要な事項を定める。

###### (構成)

第2条 部会は、次に掲げる委員をもって構成する。

- (1) 教養教育主任
  - (2) 各学部及び短期大学部から学長が指名する教員 若干名
  - (3) 教務課長
  - (4) その他部会長が必要と認めた者 若干名
- 2 前項の委員の任期は1年とし、再任を妨げない。
- 3 委員に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

###### (審議事項)

第3条 部会は、次に掲げる事項を審議する。

- (1) データサイエンス教育の企画及び実施に関すること
- (2) データサイエンス教育の改善及び評価に関すること
- (3) 数理・データサイエンス・AI教育プログラム（MDASH）の運営に関すること
- (4) その他データサイエンス教育に関すること

###### (部会長)

第4条 部会に部会長を置き、教養教育主任をもって充てる。

- 2 部会長は、部会を招集し、その議長となる。
- 3 部会長に事故あるときは、あらかじめ部会長が指名する委員がその職務を代行する。

###### (議事)

第5条 部会は、委員の過半数が出席しなければ議事を開き、議決することができない。

- 2 議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは議長が決する。

###### (意見の聴取)

第6条 部会長は、必要があると認めた場合、委員以外の者を出席させ、意見を聴取することができる。

###### (報告)

第7条 部会長は、部会の審議結果を教務連絡協議会に報告するものとする。

###### (事務)

第8条 部会に関する事務の所管は、教務課とする。

###### (改廃)

第9条 本規程の改廃は、部会の議を経て学長が行うものとする。

###### 附則

この規程は、令和8年5月8日から施行し、令和8年4月1日から適用する。

## (5) 自己点検・評価を行う体制の設置規則等

### 尚綱大学・尚綱大学短期大学部教務連絡協議会規程

#### (設置)

第1条 尚綱大学及び尚綱大学短期大学部（以下「本学」という。）に、尚綱大学・尚綱大学短期大学部教務連絡協議会（以下「協議会」という。）を置く。

#### (目的)

第2条 協議会は、本学全体に係る教育に関する事項を審議及び調整、統括することを目的とする。

#### (構成)

第3条 協議会は、次に掲げる委員をもって構成する。

- (1) 学長
- (2) 学長補佐（教育担当）
- (3) 学部長
- (4) 短期大学部部長
- (5) 短期大学部総合生活学科長、食物栄養学科長及び幼児教育学科長
- (6) 各学部及び短期大学部の教務委員長
- (7) 短期大学部の教務委員長所属学科を除く学科の教務担当教員
- (8) 教職課程専門委員長
- (9) 教養教育部会長
- (10) 大学事務局長
- (11) 大学事務部長及び武蔵ヶ丘事務室長
- (12) 教務課長及び事務課長
- (13) その他議長が必要と認めた者 若干人

2 前項第7号及び第13号の委員の任期は1年とし、再任を妨げない。

3 第1項第7号及び第13号の委員に欠員が生じた場合、補欠の委員の任期は、前項の規定にかかわらず、前任者の残任期間とする。

#### (審議事項)

第4条 協議会は、次に掲げる事項を審議する。

- (1) 本学の教育の理念及び目的に関する事項
- (2) 教育課程等の中・長期的な基本方針の策定に関する事項
- (3) 教養教育及び専門教育の企画、運営、見直し及び編成に関する全学的な方針の策定、検証、評価に関する事項
- (4) 教育課程の編成に関する全学的な方針の策定、検証、評価に関する事項
- (5) 教職課程の企画、運営及び見直しに関する事項
- (6) 関連する養成課程の教育内容に関する事項
- (7) 学長からの諮問に関する事項
- (8) その他教育に関する全学的な調整及び統括に関する事項

#### (議長)

第5条 協議会に議長を置き、学長補佐（教育担当）をもって充てる。

2 議長は、協議会を招集し、議長となる。

3 議長に事故あるときは、議長があらかじめ指名する委員が、その職務を代行する。

(議事)

第6条 協議会は、委員の過半数が出席しなければ議事を開き、議決することができない。

2 協議会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(意見の聴取)

第7条 協議会は、審議に資するため必要に応じ、委員以外の者を出席させ、意見を聴くことができる。

(専門委員会)

第8条 協議会に、第4条第4号及び第5号の事項を審議するため、教職課程専門委員会(以下「専門委員会」という。)を置く。

2 専門委員会は、次に掲げる委員をもって構成する。

(1) 協議会議長

(2) 教職課程を有する各学部及び短期大学部の教務委員長

(3) 教職課程を有する各学部及び短期大学部の教職科目担当教員 各1人

(4) 各キャンパス教務課長

(5) 教職課程専門委員会委員長が指名する者 若干人

3 前項第3号及び第5号の委員の任期は1年とし、再任を妨げない。

4 第2項第3号及び第5号の委員に欠員が生じた場合、補欠の委員の任期は、前項の規定にかかわらず、前任者の残任期間とする。

5 専門委員会の議事及び意見の聴取に関することについては、第6条及び第7条の規定を準用する。

(専門委員会委員長)

第9条 専門委員会に委員長を置き、協議会の議長が指名する。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故あるときは、委員長があらかじめ指名する委員が、その職務を代行する。

(部会)

第10条 協議会に次の部会を置く。

(1) 尚綱大学・尚綱大学短期大学部教養教育部会

(2) 尚綱大学・尚綱大学短期大学部データサイエンス教育部会

2 部会に関する事項は、別に定める。

(所管)

第11条 協議会及び専門委員会の事務の所管は、教務課とする。

(改廃)

第12条 この規程の改廃は、協議会の議を経て、学長の決裁により行う。

(雑則)

第13条 この規程に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、議長が別に定める。

附 則

- 1 この規程は、平成 27 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 尚絅大学総合教育センター規程（平成 19 年 9 月 28 日制定）及び尚絅大学総合教育センター運営委員会規程（平成 18 年 10 月 27 日制定）は、廃止する。

附 則

この規程は、平成 28 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 29 年 2 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 30 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規程は、平成 30 年 9 月 28 日から施行し、平成 30 年 4 月 1 日から適用する。

附 則

この規程は、平成 31 年 2 月 1 日から施行し、平成 30 年 4 月 1 日から適用する。

附 則

この規程は、平成 31 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

- 1 この規程は、令和 8 年 5 月 8 日から施行し、令和 8 年 4 月 1 日から適用する。
- 2 この規程による改正後の第 11 条の規定は、前項の規定にかかわらず、令和 7 年 4 月 1 日から適用する。